

市民文芸

短歌

阿南市文化祭短歌大会選

互選賞 佐坂 恵子

もう一度旅にゆきたしぐんぐんと飛行機雲伸ぶ病棟の窓

互選賞 小畑 定弘

祈ること秘めおくことの多くして喜寿より一氣に命が逼る

互選賞 西條 悦子

新薬の香りがふつと通り過ぐ終日刈田で遊びし猫か

互選賞 打樋 光子

敬老に長寿の表彰受くる顔苦難刻める皺がほほえむ

入選 喜来富士子

露草のまぎるる野辺の叢にときおり鳴ける昼の蟋蟀

入選 森岡 圭子

刈り取られ脱力したる広き田に口笛吹きたくなりし夕焼け

入選 青木 弘子

車イスに乗る人押す人夫婦らし老々介護に秋陽の温もり

入選 吉形 和恵

カーテンは帆の膨る如窓に揺れ風は音なく秋を動かす

入選 宮本久美子

鎌を杖につきて心に言いきかす「こけたらあかん」わたしでなくなる

俳句

阿南市俳句連合会選

わが思ひ昨日と同じ年新た

元旦のだるま朝日に幸祈る

鈍色の鳴門海峡冬の鳶

農神の式三番叟に時雨降る

閉ざされし農村舞台冬紅葉

大根焚善男善女笑顔かな

北風に赤いマフラー女学生

ぐちひとつ落葉にのせて掃きにけり

三方に山在る里も冬ざるる

年木積み山寺ながらこぎれいに

久米 浩一

鳥海 勇二

石井 政子

淡島 春海

水口 精二

神野千鶴子

田上 隆敏

浜田百合子

水口 明美

金本ひろみ

川柳

阿南川柳会 高木旬笑選

ユーモアと鈍感力で日が暮れる

同窓会逢いたい人は黄泉の人

試着室論吉が決めた妻の服

愛の花咲かせています夫婦独楽

多田紀久代

鈴木レイ子

二階千代美

散る事を知らぬ造花の不仕合せ
一般応募

生きている幸せ今日も噛みしめる
青空にキミの心も広げ干す

人間へ近づく動き進化ロボ
三度まで許してくれる仏顔

原 公美子

吉田 當代

仁井 信子

鳥尾美津子

岡本 正午

漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社選

遊明谷梅林

溪梅千樹暗香傳

園裏萬花如雪妍

驚客初驚情不淺

俊遊一醉染詩箋

荒瀬左知子

溪梅 千樹 暗香 傳わり

園裏の萬花 雪の如く妍なり

客を驚かす初驚 情 浅からず

俊遊 一醉 詩箋を染む

※俊遊：すぐれた友

山家庭梅

東風脈脈暖纒催

山里庭梅百花魁

的礫玉葩潔如畫

朝昏賞贊促詩來

神原 常經

東風 脈々 暖 纒に催し

山里の庭梅 百花の魁

的礫たる玉葩 潔きこと画の如く

朝昏 賞贊 詩を促して來る

滝の焼餅に憩う

春淺峨眉山下樓

潺湲玉碎一溪流

黃花倍彩小池映

風雅茶亭久闊遊

松原 伸夫

春は浅し峨眉 山下の樓

潺湲 玉と碎けて 一溪流る

黃花 彩を倍し 小池に映ゆ

風雅の茶亭 久闊の遊

探梅

殘寒未去僻村春

曳杖欲逢花色新

何處風來林下徑

暗香馥郁憶佳人

大野シゲ子

殘寒未だ去らず 僻村の春

杖を曳いて逢わんと欲す 花色の新

何の処ぞ 風は來たる林下の徑

暗香 馥郁 佳人を憶う

※佳人：…梅のこと